

hap·py
→ **go**
→ **luck·y**

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 <人の行動が> のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。

はぴ(8)号

2010年4月発行
【編集・発行】
さいたま市立中央図書館
さいたま市浦和区
東高砂町 11-1
TEL 048-871-2100
FAX 048-884-5500
HP <http://www.lib.city.saitama.jp/>

携帯HP



友だち ヲ読ム





『 あらしのよるに 』

きむらゆういち作 小学館 2006年

嵐になってしまった。雨風から身を隠すために、それぞれ小さな小屋にたどりついたヤギのメイとオオカミのガブ。暗闇の中、わかるのはお互いの声だけ。

2匹は出会ったばかりの相手なのに身の上話をはじめ。なんとなくこの相手なら、けっして茶化したりせずに話を聞いてくれそうな気がしたのだ。意外に似ていることを発見したりもして、その息づかいと体温を感じていると、ものすごく安らげる。

やがて嵐はおさまり、互いが天敵のオオカミとその好物のヤギであることを知らないまま、再会を約束してわかれる。嵐の夜に芽生えた友情のゆくえは…。



『 光草 (ストラリスコ) 』

ロベルト・ピウミーニ作 長野徹訳 小峰書店 1998年

マドゥレールは、光を浴びることができない病で、家から一歩も出たことがないし、窓から外を眺めることもできなかった。父親は、そんな息子の11歳の誕生日のために、魔法のような腕前を持つ絵かき・サクマツトに部屋全体を絵で飾ってほしいと頼んだ。

サクマツトはマドゥレールと一緒に想像したものを描き、マドゥレールはそれを喜んでながめた。日々新たに、人物や出来事や語るべき物語が描きくわえられ、絵はとどまることがなかった。やがて、マドゥレールも少しずつ生長する草原の絵に誰も見たことのない「光草 (ストラリスコ)」という植物を描きはじめた。



『 ガール! ガール! ガールズ! 』

宮下恵栄作 ポプラ社 2009年

木内日菜、中学2年。女子の世界の法則を守って、クラスでもテニス部でも今まで結構うまくやってきた。それなのに、学校一のルックスの藤崎翔音に話しかけられたあの日から、私の平和な世界は崩壊してしまった。テニス部の仲間からはハズされてしまうし、ダブルスでペアを組んでいた、ななちんの態度もなんだかおかしい。

そんなときに、公園でちょっと変わったお母さんと子どもに遭遇。いくつになっても女子の悩みは同じで、どうやら大人の世界も大変らしい。

女子の世界でゆれ動く日菜は「私の世界」を取り戻せるのか？



『 きみの友だち 』

重松清作 新潮社 2005年

11歳の誕生日プレゼントは、新しい松葉杖だった。恵美は小学五年生。去年まで友だちはたくさんいた。でも、10歳の誕生日の数日後にあった交通事故をきっかけに、友だちがいなくなってしまった。そんな恵美と病氣入院で学校を休みがちな由香ちゃんが、クラス対抗なわとび大会の回し手になった。跳び手の輪からはずれたふたりは放課後の公園で、なわ回しの特訓を開始する…。(「あいあい傘」)

他にも、恵美の弟ブンちゃんと転校生のライバル(「ねじれの位置」)、恵美の高校受験と由香ちゃんの入院(「花いちもんめ」)など、全部で10篇が入った連作短編集。



『 4 TEEN (フォーティーン) 』

石田衣良作 新潮社 2003年

高層マンションと長屋ともんじゃ焼き屋、今と昔が同居する不思議な町・月島。

好きな女の子のタイプも服の趣味も性格も小遣いの額もバラバラなテツロー、ナオト、ジュン、ダイは月島中学の2年生。今日もお気に入りの自転車で待ち合わせて放課後の計画を立てる。

友情、恋愛、性、暴力、病氣、死、家族。14歳の抱える悩みは尽きないけれど、一人では解決できない問題も4人なら、きっと乗り越えられるはず。

悩み、傷つき、助け合いながら、ほんの少しだけ大人になっていく14歳の少年たちの1年を描いた物語。16歳になった彼らを描いた続編『6 TEEN (シックスティーン)』もあります。



『 空をつかむまで 』

関口尚作 集英社 2006年

長谷川優太、美里村の中学3年生。小学生の頃はサッカーで活躍していたが、膝の故障でやめてしまった。今は牛乳屋の息子、モー次郎と一緒に将棋部に所属している。将棋部の顧問ウガジンの策略で水泳部の臨時部員になった二人は、唯一の水泳部員男子「姫」と市町村合併記念のトライアスロン大会に挑戦することになった。姫が水泳、モー次郎が自転車、そして優太がマラソンで1チームだ。

夏休みの合宿でおとずれた海岸で出会ったのは、やたらと世話をやいてくる謎の老人、ライバル視してくる海王中の生徒。その上、優太の幼なじみで、姫の彼女の美月までやってきて…。



【もっと! 「ともだち」の本】 ◆19世紀の終わりにトルコへ留学した村田君と下宿仲間たちとの交流『村田エフェンディ滞土録』(梨木香歩作 角川文庫 2007年) ◆高校受験を控えた女子、3者3様の思い、悩み『その角を曲がれば』(濱野京子作 講談社 2007年) ◆小学6年生の少年3人と近所のじいちゃんとのひと夏の奇妙な関係『夏の庭』(湯本香樹実作 ベネッセ 1992年) ◆山村留学の都会っ子と寄宿先の村っ子、そして河童『水の伝説』(たつみや章作 講談社 1995年) ◆男子高校生のくだらないけど一杯の学校生活『レヴォリューションNo. 3』(金城一紀作 講談社 2001年) ◆突然の田舎暮らしに反発するエリート中学生と風変わりな同級生『楽園のつくりかた』(笹生陽子作 講談社 2002年) などなどアリアス。

ほんの
ひととき。



詩人 谷川俊太郎

友情 を説く。

谷川俊太郎 作 和田誠 絵
玉川大学出版部 2002年
『ともだち』



教科書でおなじみの谷川俊太郎。詩人が語る絵本だけに、短い一言がじんわりしみてきます。

人とまっすぐ向き合うのは、素直に相手を思いやるのは、意外と難しい。
一見あたりまえのことばかり？ だけど、
読んだらドキッとすることもよ。
この絵本を読んで思い浮かべた顔きつと、それは大事なともだち。

フランス在住の作家夫婦が生み出したやんちゃな女の子リサと気のいい男の子ガスパール。柔らかな線と優しい色合いで二人(?)の波乱万丈な日常を描く絵本「リサとガスパール」シリーズは、各国で愛されています。

さいたま市の図書館にも、日本語版の他に英語版、原文のフランス語版『Gaspard et Lisa』もあります。表現の違いをくらべてみたり、原文の言葉の響きを楽しんだりしながら、心とむ絵と物語にふれてみませんか？

他にもいろいろな国の絵本、日本語から外国語に翻訳した絵本などもありますよ。

絵本で親しむ外国語日図書館



友だち。いつも隣にいる、時には家族よりも身近な存在。あったかくて、切なくて、うれしくて、悩みもある、いろんなカタチの「友情」を集めました。

あなたの気持ちに寄り添う本、見つかりましたか？

次回
予告

9号(7月発行)のテーマは「夜」

